

茨城県の取り組み

福地 伸

茨城県 企画部 科学技術振興監

1. 新たなつくばのグランドデザイン

筑波研究学園都市は、都市の概成から約 30 年になり、「研究学園地区建設計画（国）」、「周辺開発地区整備計画（茨城県）」の改定（H10）から約 10 年が経過する。

この間、つくばエクスプレスの開業や圏央道の整備など都市基盤の充実が図られる一方で、つくば駅前のセンター街区の再整備や国家公務員宿舎の一部廃止など新たな課題も顕在化しており、第 3 期科学技術基本計画における筑波研究学園都市の役割等を踏まえた新たなグランドデザインの策定が求められている。

つくばにおいては、研究学園地区にある研究機関や公務員宿舎の老朽化をはじめ、創薬メーカー等の工業団地立地企業の撤退などへの対応から、国内最大の科学技術の集積地としての都市の魅力を高めていく必要がある。

このため、「新たなつくばのグランドデザイン」の策定により、各独立行政法人が持っている研究成果の地域還元を進め、まちづくりに活用するほか、TX 開業や圏央道整備などのつくば発展の原動力を広く県内全域に波及させていく。

H20 年度当初には「今後の筑波研究学園都市整備計画研究委員会(仮称)」を設置し、グランドデザイン策定に向けた調査・検討（論点整理・中間取りまとめ）を行い、これに基づく「研究学園地区建設計画」及び「周辺開発地区整備計画」の改定を H21 年度に予定している。

2. 次世代エネルギーパーク

新エネルギー等を実際に県民が見て触れる機会を増やすことを通じ、次世代のエネルギーのあり方について理解増進を図ることを目的としている。

本県の構想は、企業や研究機関等が集積している 3 地区（つくば・TX 沿線地区、大洗・常陸那珂・東海・日立地区、鹿島・神栖地区）をネットワーク化し、既存の取り組みを紹介するものであり、本年 10 月に全国 6 つの計画の 1 つとして国の認定を受けている。

事業運営は次世代エネルギーパーク推進協議会(仮称)が中心となり、来訪者に対する総合窓口としてパークインフォメーションセンター(仮称)を設置することとしている。

3. いばらきイノベーション戦略

つくば、東海、日立、鹿島の科学技術の融合を図り、日本のイノベーションを牽引する一大先端産業地域の形成を目指し、「いばらきイノベーション戦略（仮称）」を策定することとし、茨城県科学技術振興会議のもとに戦略策定に向けたワーキンググループを設置、検討を進めている。

検討内容は、①イノベーションを生み出す基盤づくり②イノベーション創出の契機となるプロジェクト実施に向けた研究領域の抽出である。

4. つくばサイエンスツアー

つくばエクスプレスの開業を契機として、筑波研究学園都市に集積する研究機関等を貴重な地域資源として捉え、施設の公開・開放を促進し、県内外からの見学・学習の場として活用するとともに、科学技術の普及啓発を図ることを目的に、つくばサイエンスツアーを実施している。

5. 県地球温暖化防止行動計画

H18 年度から 22 年度を計画期間として策定した県地球温暖化防止行動計画は、県の区域全体において温室効果ガスの排出抑制等を行うための計画であり、温室効果ガス排出量の削減目標や産業、運輸、民生（家庭）、民生（業務）の部門ごとの具体的な数値目標を設定している。

基準年である 1990 年度と比較した本県における温室効果ガスの削減目標は、マイナス 4.6%である。